

祝 辭

交通部次長 平井出貞三



「建設」會員壹千名突破紀念號發刊ニ際シ聊カ所懐ノ一端ヲ披瀝シ得ルハ予ノ最モ欣快トスルトコロナリ。

茲ニ拙辭ヲ弄スル迄モ無ク土木事業ノ重要性ハ國民生活ノ基調ヲ爲スモノナリ。換言セバ産業經濟ノ發達、國防、治安ノ充實保全ハ一ニ懸ツテ土木事業ノ完備ニ在リ。國力ノ隆替ハ之ガ完否如何ニ在リト謂フモ敢テ過言ニ非ザルベシ。

例之道路ヲ建設改良シテ交通運輸ノ便ヲ圖ルハ産業經濟ノ發達進展、國防、治安ノ保全ヲ期スルニ外ナラズ。河川ヲ改修シテ水ヲ理ムルハ國民經濟生活ノ安定ヲ圖リ農業立國ノ國本ヲ完フスル所以ニ外ナラズ。

竊ツテ惟フニ土木事業ノ效果ハ直接百民ノ利害ニ反映スルモノナルガ故ニ、事業ノ效果ヲ大ニシ民生ヲシテ國家ノ施政ニ感謝ト敬服ノ念ヲ抱カシメ政治ノ地方的浸透、民心ノ把握收攬ニ努メテ宣德達情ノ實ヲ圖リ、官ノ赴クトコロ民亦之ニ從フノ官民一途政府則人民テフ國家精神力ノ統合ヲ圖ルハ蓋シ國力ノ躍進上將又心的總動員計畫上裨益スルトコロ不尠モノアリト信ズ。

加之一國ノ獨立性換言セバ國家體型ノ整備上固ヨリ諸制度ノ確立ハ必須要件ナリト雖モ亦物的施設ヲ完備シテ具體的ニ如實ニ國家體型ヲ表象スルノ必要アルコト贅言ヲ要セズ。譬フレバ如何ニ制度上國家組織ヲ確立スルモ建國以前ノ滿洲ノ如ク荒廢無秩序ノ狀態ニ放棄サレ、何等施設ノ見ルベキモノ無クンバ外形上列國ニ比シ、國家ノ品格ヲ毀損スルノ嫌ヒ無シトセズ。内制度上財政上其ノ整備充實ヲ圖ルト共ニ、外又具體的ニ物的方面ヨリ近代的文化的施設ヲ施シテ國力ノ充實興隆ノ狀勢ヲ如實ニ表象スルハ、蓋シ一國ノ獨立性ヲ確認セシメ、國際的信用價值ヲ向上セシムル所以ナリト思惟ス。之ヲ要スルニ土木事業ハ内、國力増進ノ基調ニシテ精神總動員計畫ノ一助タルト共ニ外、國家ノ國際的信用ヲ向上セシムル所以ナルヲ以テ土木事業ニ携ハル技術者ノ責務ハ愈々重且大ナルヲ痛感ス。

抑モ技術タルヤ人類ノ利便ノ爲最モ經濟的ニ自然界ノ力ヲ利導スル所以ノ術ナリ。換言セバ人類ノ利便ノ爲、自然界ヲ征服スルノ術ナルガ故ニ、技術者ハ人類ノ爲自然界征服ノ榮譽アル戰士ニモ譬ヘ得ベシ。現今科學ノ進歩ト技術ノ優秀精緻ハ自然ヲ征服セルノ感アリ。乍然年々ノ洪水ニ依ル土木諸施設ノ被害ニ鑑ミルモ未ダシノ感無キニシモ非ズ。經濟上其他ノ理由ヲ斟酌裕恕スルモ、更ニ技術上一段ノ研究ト調査ヲ加フレバ、或ハ斯程ノ被害ハ無カリシナランノ感ヲ抱カシムルモノアルハ甚ダ遺憾トスルトコロナリ。殊ニ我が滿洲ノ如ク氣候風土等特殊性、複雜性ニ富ム國ニ於テハ、其ノ歷史的研究ト現地事情ノ精密ナル調査ニ必要ニシテ、之ニ即セル特殊工法ヲ研究シテ施工スルコ

ト最モ肝要ナリトス。加之技術者ノ責務ハ最モ經濟的ニ最モ效果的ニ實績ヲ擧グルニアルヲ以テ、自然界ノ研究ト共ニ豫算ノ運用ヲ有效適切、事業ノ實施ハ重點主義ニ則リ 適地適應輕重緩急宜シヲ得ルコト最モ須要ナリトス。

以上要セバ技術者ハ人類ノ爲自然界征服ノ戰士タルノ責務ト本分ヲ痛感シ、共ノ調査研究ヲ慎ニ工事ノ施行ハ飽ク迄適切ニ自信ト誇ヲ以テ處理スルコト肝要ナリ。

土木技術向上發展ノ爲土木研究會創立セラレテ 茲ニ3年、此ノ間ニ會ノ我國土木事業ノ爲貢獻ル功績尠カラズ。冀クバ會員各位ハ建設途上ニアル我國現下ノ趨勢ヲ認識シ、技術ノ重要性ト共責務ヲ痛感シ、益々技術ヲ研鑽ヲ重ネ土木事業ノ進展ニ寄與セラレンコトヲ望ム。

茲ニ土木研究會々員1千名突破記念號發刊ニ當リ 會ノ偉功ヲ謝スルト共ニ益々其ノ發展向上ヲ幾シ祝辭ニ代フルモノナリ。

滿洲土木研究會に寄する祝辭

滿洲技術協會會長 貝 瀨 謹 吾



滿洲國國を肇め都を築め百業を興してより僅に6年、而も今や政善くして僻陬に達し、建國當初豫期せられたる王道樂土既に成て、3千萬蒼生熙々皞々として歡喜に滿つ、洵に隆なり矣と謂ふべきである。

吾人昨年9月16日新京に於て催されたる國都建設記念式典に參の光榮に浴し、新京を中心として四周主要都市への7條の國道系が確立され、市内に幅圓26米乃至60米の幹線を始め、支線補助線街路が整然として完成され、幽遠閑雅なる數箇の大公園、宏壯華麗なる大厦高樓、豊富なる水源備せる下水、悉く近代的都市の粹を集め、往年落寞たりし曠野は忽ち一變して、絢爛たる大都市なつたのを今更に觀得した。由來首都の建設事業は國家興隆のバロメーターたるものであつて、ち國都新京の此の驚異的にスピーディなる出現は、新興滿洲國の躍進的に發展しつつある國運を實に物語るものである事を痛感したのである。即ち此の短期間に於ける産業の開發、交通の伸張は是れ偉大なる建設力發揮の資たるを想ふの時、土木建設の業に携はれたる諸兄に對し、深甚な敬意を捧げざるを得ないのである。

而して松花江其他に於ける大水力發電の施設、河川運河の改修開鑿、道路鐵道の築造延長、地都市の計畫設備等々、土木技術の寄與に俟つもの頗る多いのであつて、之に對し滿洲土木研究の活動は、必ずや有終の美を濟すものと信するのである。蓋し研究會は生誕日尙ほ淺しと雖も、去に於て既に異常の功績を擧げられたる上に、最近會員數1,000を突破し、更に倍舊の精進を期

られつゝあるに於て、其の實社會に及ぼす貢獻一層顯著なるべきを疑はないのである。殊に今次事變の延長擴大に伴ひて、所謂東亞の長期建設に對し、大陸技術者亦極めて有力なる闘士たるべき責務を加へたのである。此の意味に於て吾人は今日の機會に、本土木研究會の榮えある將來を祝福し、會員各位の御健闘を祈つて已まない。

記 念 號 發 刊 に 當 り て

滿洲土木研究會會長 直 木 倫 太 郎



本會々員が早くも1千名を突破したるは頗る愉快である。それは我國策の線に沿ふ必須の土木事業が廣範圍に亘つて着々進展しつゝある一つの證左であり、急速度を以て伸張する國勢興隆の半面を如實に反映するからである。

我等が擔當する事業は總てその規模雄大であり、擧げて國家百年の大計に參ぜざるはない。見よ水陸兩面の交通に、運輸に、大小河川の治水に、砂防に、水力發電に、或は耕地の造成に、地力の増進

に、將た又都市の計畫に、保健衛生に、我等が受持つ役割の如何に重且つ大なることよ。産業5箇年計畫とても之が遂行の基礎的施設に任ずるものは土木である。百萬戸移民計畫の實現とてもその卒先處理を要するものは、土地の整備であり道路の敷設である。況や國家非常時の今日邊疆國防工作の或部面とても、特に我等の勇敢なる先驅的協力に待つべきもの又甚だ尠なからざるおや。加之是等の諸事業たる、その悉くが同時に社會民心の機微に觸れざるはなく、その精神的利害を衝動せざるはない。所謂民力涵養民情安定の政務に直接影響するの、如何に深甚なるものあるかをも併せ稽へねばならぬ。即ち我等は自肅自戒、努めて高邁の識見を養ひ、鋭敏なる智能を働かさねばならぬと同時に、又退いて自修自得、益々その専門的研究心を鼓舞し、鮮新なる智識と經驗との學習練磨に不斷の努力を致さざるを得ない。

國土建設の聖業は一に收めて我等の手にあり、然かも我等の事業は常に大地を相手とし自然を對象とする所にその特色を有つ。即ち其の地區其の自然が持つ箇々の個性に習熟精透して以て適地適應の施設を營むことによりてのみ、我等の技術は常に能く活き能く新しきを得るのである。幾多參考とすべき記録も研究も、之を我國土固有の特異性に照して仔細に検討洗練さるゝを待ちて初めて其實價如何を判ぜらるべきである。即ち茲に本會設立の眞意義があり雑誌「建設」の大眼目がある會員1千名突破の快報は必ずや更に本會の活躍を促し、以て益々適切なる滿洲技術の大成に貢獻するであらう。聊か蕪辭を列ねてその前途を祝福す。